

## より多くの人に働く喜びと生きがいを

社会福祉法人ふるぼの 奈良県奈良市

### ■障がい者の就労支援と雇用創出に取り組む

「社会福祉法人ふるぼの」は、障がい者の就労支援と多様な雇用創出に取り組む法人である。

理事長の山内民興氏（70歳）は、メーカーで企画・マーケティング業務等に従事したのち、東京で画像解析を行うIT会社を起業。ビジネスの第一線で活躍していたが、50歳で咽頭がんとの診断を受けた。手術により声を失い、身体障害者3級と認定された山内理事長は、会社を手放し、自宅のあった奈良で療養生活を送ることとなった。

転機となったのは2001年、同法人の前身である「福祉作業所ふるぼの」で、声を補うための人工咽頭を片手に、ボランティアとして障がい者にパソコンの使い方を教えたこと。めきめきと上達しやりに溢れる障がい者の姿を見て「働くことは、単に生きるための手段である以上に、社会で必要とされる喜び、生きがいを感じることであり」との思いを強くしたという。

これをきっかけに、同所の経営者に障がい者就労に関する助言を行ううち、次第に運営そのものを任されるようになり、数年後に理事長に就任、2013年には社会福祉法人の認可を受けた。

### ■就学中から就職まで社会生活を一貫支援

同法人の最大の特徴は、障がいのある方が地域で働いて自立して生活できるよう、就学期から社会性を身につけ、働くイメージづくりや、働き続ける力を習得できる就労支援プログラムの提供にある。社会生活を送る上で必要な知識や技術を個々の特性に応じて学べるよう設計された同プログラムは、「社会に必要なとされたい」と願うすべての人の心強い味方となっており、これまでに一般企業へ200名以上が就職している。

また同法人は、一般企業への就職支援だけでなく、福祉事業所として自ら多様な雇用創出に取り

組む。会計データの仕訳入力やアンケート入力、商品データ登録作業を行う「Pac（ふるぼのアカウントセンター）」事業、中古PCの再生やロボティクスを行う「福祉3R」事業、高度なHP・ECサイトの制作やDTP等のIT手間仕事を請け負う「Proide」事業等を展開している。

これらの取組みが県内外から高く評価され、2017年12月、山内理事長は障がい者福祉に大きく貢献した人物に贈られる「第18回ヤマト福祉財団小倉昌男賞」を受賞した。

### ■地域内経済循環の活性化にも取り組む

愛媛県出身の山内理事長は、第二の人生を歩む奈良の地に強い愛着を持つ。特に県内産業振興への思いは強く、新築した新大宮事業所ビルには、県産のスギのCLT（挽き板を直交するように積層接着した厚型パネル）を活用。木造5階建てのビル（建築基準法を満たすため1階のみRC造）は珍しく、全国から見学依頼が絶えない。

また、県内の一般事業者とともに「あたらしい・はたらくを・つくる福祉型事業協同組合（あたく組合）」の結成に携わり、「奈良のしごとは奈良でする」をモットーに、福祉事業所を活用した地域内経済循環の活性化にも取り組んでいる。

「障がいのあるなしにかかわらず、人は誰も他の誰かから助けを借りて生きている。すべての人が生きやすい環境を整備したい」と、山内理事長は人工咽頭を手に力強く語る。

（太田宜志、八木陽子）

### 社会福祉法人ふるぼの

〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-41  
ふるぼの福祉ビル  
TEL/FAX: 0742-81-7032  
URL: <https://probono.vport.org/>



山内民興 理事長